



Title	特講
Author(s)	鈴木, 栄太郎
Issue Date	1957-10
Doc URL	http://hdl.handle.net/2115/77381
Type	manuscript
Note	東洋大学文学部社会学科。
File Information	N025_0134.pdf



[Instructions for use](#)



TRADE MARK

三美A3

NOTE BOOK

清義集

岡田 (松崎の自筆 松崎の自筆)

自然村の松崎 答子

都立大学

昭和31年夏

TOKYO SANBI NOTE

社会学研究の概況

一、日本の社会学界は戦後昭和の時代は急激に
日本の社会的政治的状況の研究の時代。日本社会学
は日本人の手で世界の世となった。

一、常時研究回しを繰り返して行く。

一、社会学の本来的研究深淵は人の生活の
基本的構造に在る。組織的研究
実証的研究のみに対象は既に取らざる。

一、人の生活にかけよるの基本的な概

一人と様国による四分法の活用

書きよ

ペンがくらない

インキがにじまない

三拍子そろった

三菱フールス

三菱揃った サンビーンノート

紙 質 美
製 本 美
表 紙 美



農村より都市へ

- 一 アメリカの人口は五億類
- 一 大衆より強さへ
- 一 以て農人口の漸増
- 一 機園の漸増
- 一 未知人種も園地の漸増
- 一 善観より合理へ
- 一 系統的より瞬時的へ
- 一 人と人との園地より機園と機園の園地へ
- 一 直子家族より夫婦家族へ
- 一 清防園より清防田舎へ
- 一 都市的と職業分化
- 一 東洋世界の概念

自然村の社会構造

村としての精神

宗の精神 村の精神 門の精神

都市に精神が在るは都市の精神

人は地球の間に階層の間に皆先づ懸

懸かたがたから共同懸懸は強と弱

自然村の共同懸懸の場合が多い共同懸

懸共同感覚共同期付なきが精神の

内容となつて片は場合が多いが互にた

のは都市にはない都市人は皆互に

に懸懸も期付もして片は村におけ

るな精神はあつて片は都市の中に

は多くの村があつてその精神がある都市の

中の村は皆互に地域互に同業互に

に同業互に人の仲間互にはなくである

それ等を一つとして考へればやはりその都

市の精神はあつてある。金沢市には

やはりそんな意味での村の精神がある

村の精神は一本の同盟の精神の格に

町屋的にあつて後についで片はあつた

都市の精神は色々の色の短しセンイ

をより合せて見くやいけりとも色

並い東の

大まかに

精神は如何に強く
他人の心を拘束し影響し
支配しやうとし
精神(非物質)として居ると
は他人の心の内以外では無い。

④ 他人を以て対象とする。偉大なる。客観的
存在と見えようとし

書林の精神と云ふ。物質的の心を断絶す。
了らなく過してより。若し存在しし行
く行の時のな相になつて精神
と云ふのである。

自知村の社会構造

三村の専断を積り

ギョウロのウィスコンシン¹⁹¹⁰の調査と

その後の忠村社会と都市社会

(1925)
(p. 14)

カニ社会地区、カニ社会地区、カニ社会地区

朝鮮の場合

カニ社会地区と自知村と部落、山村

村落及び都市と行政地区

一 自然村の場合

新村は村落に連続して片の十種の
集落の形に行政集落を画けし
所。新村は自然村は一般に村落と
呼ぶ。これよりものである場合が多く、
それは江戸時代の行政村即ち知
可沼田村である場合又多しと
す。自然村を決定する所
の印は旧村と云ふも此の
。然し又旧村は氏子の共同地帯
田作であった場合が多しであるから、
旧村で江戸時代の氏子田作であった

このが自然村を有する最大の條件
である。と述べて居る。
私が自然村に行政村を電置せし
して居る可は、此に由る。先づ分るべき
事である。

二、都市の場合

都市の歴史的統一の基礎としてその

規範決定の上に都市を必要とし

て居るとして一と区別して居る。

物は都市と政治との関係は其の

文化史的起源を以てするが故に

はれりと述べて居る。

都市は政治と共に発生した或は

は都市が誕生すると同時に其の政治

が先行して或は其の政治が誕生すると

直ちに其の互の異化的の形態として

都市が生れ出たのであるが考へて

居る。又地球のためとして有し其都市
に政治を伴ふべきあり其都市は一つと
都し方かといふといはれよとせしむべきよし。
政治なくして都市の存在は一日も
あり得ないとし老へてはよ。

その時代として常に最大の密尺的
大東洋記号であり都市の秩序（経済的）
の維持のためには政治は必要である。
と考へるべき。近時都市は口泉
の口は維持力かえり分つたか、
技術的にも地方都市は自力による
防衛す可き必要を感し其を以てあ

「か」
その際都市は政治力なしに金

市民の力を防衛のため結成し防

衛の屋を及けるは到底不可観であ

らざるありき。

近世に入つて都市はその巨大なる権勢を

急ぐ成長せしむるを共に都市は火災は

や凡水害に對して病の病害に對して政

治力には防衛の力をあげなければ

ならざる事あり。

都市は太古に於いては今日に於いては

政治の力なしには到底存続し得ない

しのと共へしる。

都市の政治がなされた西海行政地
区は都市をその外部と区別する。最
後の境界線である。

国家と政治権の位置する。境界の
線が如何に国民を封鎖して片よ
か吾人の私に知って片よと云ふ事である。

思ふ民権の名で片よはわて片よと社会的
統一は、^{常に「史」の}は、^{常に「史」の}同一の同一の境内の
人々の手探り印を同一の国民社会をな
す事である。その中に文化も

パキヤリヤリしし体的な同一の同一の型
と云ふ片よの事と云はれぬ。政治力を

境界に

嘗て七令も此等の位にかしれり有す。

監獄部底も位者^セ催眠術にかけて

其の如しか其へられな一色^ハの原始的

催眠術者等皆然りである。何れも

皆之の支配者が被支配者である。

同種作政治である。同種を心の状態に

万人^ト統一の命令に服せしむる事

は不可能である。未して急を要する場合は

にかくの如き事を実現する事は至極中の

至極である。70%の人々が心よく賛成する。

標本行動を指導して行くまでも人同

業ではなす。30%又は10%の人々は正而よ

り反対する人にてあるが常である。最も
反対する5%の人々に対してこれを鎮撫
するのは暴力以外にはない。

暴力を用いて鎮撫する力を用意して
万民を指導する。これは政治以外
にはない。

都市の富貴の大衆を政治の秩序は
政治の力を骨髄として要とする場
である。

影を弱くして居るのであるが、高橋の定
としての意力を示して居る時代である。
部落耆老の持有権管理や部落民
神の村社への合祀が、実に現存
せしめられたるが、時の行政者の
指導方向を示して居る。
農村指導者への整え方として部落
の自主性の尊重が、農村指導者への
有給であると思はれる。根拠は色々に
ある。農業計費文には不足分を
農村計費に充てようとする。そのためには
中央の生活の實踐に適する。

我が国の混沌を特^に典^義地^尊二^よつて
部落の自在蛇^と独^立蛇^は比^較し^てな^らぬ
位^に変^質し^て来^ては^しぬ^とも[、]然^して^もな^らぬ
尚^ほ余^脈を^感ず[、]日^は来^ると^思ふ^が
あ^らむ書^の私^の本^の内^容を^改死^の
度^にら^んて^批判^すの^は美^々に^過切^なは
ない。け^れど^も基^本形^を記^す積^の形^式
は^今存^在す^のま^に先^さと^すゆ^えか
あ^らむ様^なである。

氏神と村落の自覚

いつの時代にもあつた
村の神の氏神鎮守は祭りの鎮守を本祀

とする。それとしての意味を持たぬはたうな
かゝると有様はあや。たか村の氏神は

自覚的のものに足えこれ上からの支配や干
渉ははれぬし弱しものであらと彼はあや。

氏神以外のものもいつの時代も村落は
上級の政治的権力と何らかの形で結んで

下層をから村落は政治的統一はあつて
強い自主性自律性を持たたとはいへぬ

と彼はあや。

先づ氏神文についであやと、村の氏神が

祭意の鑑守を本祀とする。若社と云わが
その場合の本祀末祀の社名はな意味は
何であらうか。本祀の祭神かその末、若社
の祭神とある。すか（すま）本祀若の祭神の他
社か末祀の祭神の位階にその名、神は
れとすか。

余は丁使には余り通じないが、全口の持統
おのの祭神を天神地祇に統一したる

記日事考紀の神々の神々の名を（用いし）
めら改令があつた。すは（又）神を排撃する政令もあつた。
すは（又）神を排撃する政令もあつた。
すは（又）神を排撃する政令もあつた。
すは（又）神を排撃する政令もあつた。

祭意の故に若社に主祀名の鑑守の末祀

とせしめたと云ふ事実は同か否か。主権の大小
を定む事。毎んかくの如き変革がある
筈は否か存しむ。そのゆゑを以て神
ないからざる。

有るものは支配者の権力の所から村落の氏神
もその他のものも自ら神は余りなかつた
存しむ事と云ふが、何へは支配者は何の
為んか （を他神があつたか） 村落の氏神に要す
し 期付しむ。村の氏神に何か恐る可
き他神があるか。村の氏神に何か恐る可
私の氏神と云ふ事は村の氏神にほ
といふ神は有しなると云ふは、男力神と

か、女神とか、多の甚い、神とか、初か、神々
か、時には不潔を好むと云ふ神をいふも
あるか、そんなるは強と、と云ふもよ、
あつて、村人等の切な、神を何てし
同才とく、れよ、そのか、氏神である。善惡
の行動や、正者を善惡を、れい、道に、導
成す、存に、協力して、れよ、力が、村人等の心
に、うつて、れよ、氏神である。どんな、
前にも、少しも、変りな、性格をもつ、神
である。そんな、神を、いふ、よ、の、し、
為、お、支は、干渉し、た、け、れ、は、た、め、と、ころ、か
あるか。

田中(内田)の民精神のみに神祀

に因して前ねんかへ祀の干渉をせしむるありき。

そのめに神祀を過ぐ時脱帽するを指導す

獎勵され、又地方行政員が社務を促して

その儀祭に参列し、祭祀料をせした。

彼郷の人が、祭祀に参列すの、祭は一層

盛大になり賑やルなつた感^じをせした。

祭の^{おん}内容も、祭の隆さもそのめん

やして、遂にとも人ほあるまつ。却て

祭の^{おん}内容も、祭の隆さもそのめん

して、遂にとも人ほあるまつ。却て

祭の^{おん}内容も、祭の隆さもそのめん

政治的に
村落が支配される立場にあるか、自己

的自律性を感じたか、それのほかに

ない、中央の支配とは村落の自己自律

性をいかに守るか、仲要かあつた場合

ありとあろうか、一般の村落のりつて

ところ、平安生活する、そのための自己

性をいかに守るか、仲要かあつた場合

ありとあろうか、一般の村落のりつて

ところ、平安生活する、そのための自己

性をいかに守るか、仲要かあつた場合

ありとあろうか、一般の村落のりつて

ところ、平安生活する、そのための自己

村長もそれだけ村の内の一部を
す以上それはなく当然のことである。
私に「^{村の}自主性自主性」と云ふのは疑ふも
それによろこい、^{村の}補助するにあらうと
のついでしい自治の生活^の形である。
それ又とんた^にあさやまに^てあし^てよろこぶ
それ互政治者が^にあつた^らば^はい^てこ
あろう。

○この治安維持の力の弱かつた時代には村
落はそのるんも一体となつて自らを守衛し
あげればあつた。村の内では有無相通し
互いに協力し合つて生活するは去いたの

村の宿命であったであろう。物質的に
文化 精神的に 自治や自給自足は必要
な生活形態であつた。

要するに有量な封建時代の何時の時代か
も村は強く結束する。原因のあつても
も又子定結末のよくなると思ふ。
か、その結果は強い上よりの政治
力の前には弱いものであると
わつてあるか、おかしなところを
あつか。私語に自治村の結束の強
さを認める文で先分である。

又上の政治力の下に自知村の結束か

弱いと云ふるは当然よき。税当然
の事であらむ。然し上の政治力が自
然村の結末を目の仇に思ふ必要が
一層こゝにあったらうか。村に
徒虎を作つて上の政治に反抗す。
存な揃ふれば村の結末を一と
たおしうもたなく、^{屏風}快申せられたる
うか。あらゆる政治の先に猫の
標に短喉口であつて只此の如く
の生活の幸福をわけておくれんて
自然村に何のうらやまかある
その病を弱体化するゆゑある

つたろろか

有明か

古代より氏神にまつて詣りしは

徳田か一かしの丁屋宗女よりと物津

にほえん^心あろ^心弥^心と^心社^心屋^心を^心め^心る^心

海産のり^心せ^心は^心何^心の^心役^心に^心も^心た^心る^心を^心

い